



大分大学教育学部附属幼稚園

大 幼



令和6年度

園長だより No.10

令和7年3月27日

みんなの楽しみは何だろう？

2月末に近所の公園へお別れ遠足に出かけた。わずかな距離だが、日頃の環境を抜け出すとあって、少々興奮気味な園児たち。先生方が用意したクイズが面白い。「ライ君のお尻はどっちでしょう」や、「園長先生の家でのお仕事は？」など。

そして、「今日の一番のお楽しみは何」と聞いてみたところ、一番多く子どもが手を挙げたのは、圧倒的にお弁当だった。古今東西不易としての楽しみは、食べる事なのだろう。特にドキドキしながら蓋をとる瞬間がたまらない。青空のもとでお友だちと食べるのはさぞかし格別であったと思う。



ここは、私たちの幼稚園



美しくお別れを

3月13日(木)卒園式、3月17日(月)修了式を終えて、令和6年度の全ての教育課程を終えた。「楽しく・明るく・やさしく」という子どもの姿を目指し、保育・子ども理解・PTAとの協働等、十分な時間と労力をかけたことは、必ず子どもの姿に映っていると思っている。

子どもたちが、みんなの前で振り返りを話す場面がある。子どもたちが選ぶのは、「楽しい思い出」にほぼ絞られる。幼児期における最大の学びは楽しむことと言っても言い過ぎではない。子どもたちは自らをウエルビーイングで満たそうとしている。附属幼稚園には、それを受け止め、支える大人たちがたくさんいる。



3月26日の辞令を受けて、この度大分市立大在小学校への異動することになりました。今まで3年間附属幼稚園の園長として支えていただいたことに感謝を申し上げます。

園長としての3年間は、かわいい園児や協力的な保護者や職員に囲まれて、幸せな時間で満ちていたと思います。附属幼稚園で取り組んだ行事の数々は、私にとって楽しみであり学びでありました。

附属幼稚園は、豊かな遊びの創出による経験値を重要な学びとし、未来を主体的に生きていく土台となる力を養っています。ここは大分県の宝箱であり、多様な人・もの・ことに主体的に関わる環境を構成しつつ、社会全体に遊びの価値を広めていく幼稚園です。これからも教育活動全体を通して地域のモデル園としての存在感を強めていくことに期待します。

最後になりましたが、今までいただいたご厚情・ご協力に心から感謝を申し上げ、退任のご挨拶とさせていただきます。「ありがとうございました！」